

令和 6 年度 第 4 回 萩丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和 7 年 2 月 17 日（月） 14 時 30 分～16 時
- 2 開催場所 萩丘小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 莞爾、鈴木 健太郎、長谷 明浩、岡本 譲、大橋 邦久、
渡邊 貴子、門奈 正洋、北田 由美、増崎 桂
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 鈴木 克隆（北部協働センター） 森本 岳二（学校評価者）
- 6 学校 須藤 邦夫（校長）、袴田 洋史（教頭）、太田 健太郎（主幹）、鈴木 かおり
（CS ディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 鈴木 かおり
- 9 議長選出 司会から、長谷委員を推挙する旨の発言あり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
 - （1）学校関係者評価
 - （2）令和 7 年度学校運営の基本方針の説明
 - （3）令和 6 年度運営自己評価
- 11 報告
 - （1）夢育やらまいか CS 加算分の報告
 - （2）令和 6 年度コミュニティ・スクールの取り組みについて
 - （3）その他
- 12 会議記録 委員全員出席があり、過半数に達しているため会議成立している旨の報告があった。

【協議事項】

- （1）学校関係者評価
主幹より令和 6 年度学校評価報告書に基づいて報告があった。

- * 地域性、学校の特徴なのか協調性、チームとしての活動は高く評価できる。課題としては子どもの自立する力が弱い。勉強環境においても、誰か何かのせいにする。勉強は自らするもの。友達がやるからではない。協調性が変な働きをすることがある。自分のレベルを下げることになる。挨拶ができないこともそれにつながる。保護者のポイントが低いのもそのせいでは。失敗があるから成功が体験できる。失敗が大切。（門奈委員）
- ・失敗は大切。運動会、学習発表会、子どもたちで考え実行していく。当日成功するために失敗を体験しながら考える。行事だけでなく日々の活動でも体験していく。（主幹）
- ・いまの子は、失敗しない。保護者が手を出しすぎてしまう。失敗して成長するのもいい（長谷委員）
- * コロナ インフルエンザなどで休んで成績に影響はあるのか。（岡本委員）
- ・6年会食でも、マスクを外さない、外せない子がいる。コロナの影響が大きく残っている。失敗を怖がっている。大人も失敗を避けようとしている。チャレンジの機会も減り、レベルも下げる。アフターコロナとしてのケアをする必要がある。（校長）
- * 子どもの、地域との関わりはどうか。（岡本委員）
- ・祭りに参加したという声は聞く。地域に関わりながら大きくなっていく。（校長）
- ・あまり積極性がない。PTA の地域での活動もあまり活発ではない。活動を盛り返そうとしているが一度下げてしまったものは難しい。（岡本委員）
- ・地域が安定しているので、子どもたちが安心して活動している。他地域より萩丘小校区はよく頑張っている。（校長）
- ・幸会館で、子どもたちが遊んでいた。書道教室があったり、管理人さんがいたり、ほのぼのと地域と触れ合えていた。（教頭）
- ・よい環境ではあるがルールを守ることが必要。（岡本委員）
- * 自己評価アンケートでは、子どもと保護者のポイントの差が大きい。子どもは考えようとしているのに。考える、考えようとしていると成果は違う。アンケートとしては難しいのでは。あいさつにしても、子どもとして、保護者としての100点満点の姿の捉え方が違いすぎるのでは。子どもは努力しているがまわりはみとめていない構図。子どもは安全面から誰にでもあいさつはできない。（渡邊委員）
- ・大人が進んであいさつすれば子供もする。マスクをしていて聞こえないこともある。（鈴木莞爾委員）
- ・知らない大人にするのは難しい。学校ではどう教えているのか。（長谷委員）
- ・登下校、旗振りの方にはあいさつするよう指導しているが。（校長）
- ・大人と子どもとは評価基準が違う。その都度、大人はこう見ているよ。ということを伝えていかなければならない。「律」の自律心も大切だと思う。自分を抑えたり我慢したりも必要。子どもができていなくても、できていないことが多い。発表会など静寂が求められている場でぎわぎわしていたり判断の基準がちがう。その場で言って気づかせ、成功させ、すぐ褒める取り組みが必要。（大橋委員）

(2) 令和7年度学校運営の基本方針の説明

校長よりグランドデザイン資料に基づいて説明があった。

* よりよく学ぶ力

- ①基礎基本を徹底させると子どもが逃げてしまう。どこまでの学びを求めているか、親の力が強くなっている。身につけないといけない力が弱くなってきている。子どもの能力を高めるため基礎基本をもう一度見直す。
- ②先を見通せないと不安がる子どもが増えてきている。「次回の楽しみ」にすると不安になる。すべてを明らかにして不安を持たせない。
- ③人や物事に関わることが課題。自分から関わっていかうという力が必要。

* かかわる力

- ①あいさつも学校だと頑張るが、地域の人、保護者、評価基準が違う。どの場面でもあいさつが出来るように。
- ②失敗を恐れる。褒められないと自信を持てない。一人一人褒めるポイントはある。しかし、叱るところはしっかり叱る。
- ③人を意識しながら活動していく。自立にも関わっている。

* ふみだす力

- ①自分で目標を持ち、自分で計画、実践力を身につける。

* なりたい自分を考える力

- ①自律につながる。友達、学級、学年間のつながり方、在り方。今の自分はどうかだったか、自他ともに評価を得て振り返る。

* 協議会について校長より

熟議の設定は、学校の課題を出せば熟議になる。報告だけでは熟議に至らない。課題を出して相談していく。メンバーの意見を聞ける場にしていく。

他校 PTA の下がっている参加率

ぬくもりルームの運営は苦しいが、場は必要

不登校児童へのアプローチはどうするか

- ・不登校はどうなっているか。地域として対応は難しい。(長谷委員)
- ・家族と連絡が取れないということはないが。(校長)
- ・鈴木莞爾委員より、実際対応した事例について説明があった。保護者の生活が安定しないと子どもも安定しない。
- ・不登校児童が地域にもいることを分かってもらえたら。(校長)
- ・民生委員は、分かっているのか。(長谷委員)
- ・不登校については出ていない。学校からリストを出してもらえば相談窓口になれる。学校としてどこまで民生委員に開示するかで変わる。(渡邊委員)

- ・民生委員も家庭の中まで入れないのか。(鈴木莞爾委員)
- ・入らないようにしている。(渡邊委員)

(3) 令和6年度学校運営協議会自己評価

教頭より、自己評価表資料を基に意見を求める発言があった。

*評価項目1

- ・個人ではなく協議会なので出来たと思う。(渡邊委員)

*評価項目2

- ・萩サポ、PTA、くすのき各々の活動があり基本方針に沿って尽力いただいた。(校長)

*評価項目3

- ・学校支援活動萩サポ、見守り隊、学習スタディサポート、子どもたちにいろいろな支援をいただいている。(教頭)
- ・萩サポでお便りを作って発信している。回覧、入学前説明会、PTA 総会にも CS だよりを通じて発信。(北田委員)
- ・くすのきの定例会でメンバーと情報共有させてもらっている。定例会での内容を、次の協議会で発信させてもらっている。(門奈委員)

*評価項目4

- ・熟議ができる問題提起をしていきたい。(教頭)

【報告】

(1) 夢育やらまいか CS 加算分の報告

教頭より、市から資金をいただき外部講師代としてしていると説明があった。

(2) 令和6年度コミュニティ・スクールの取り組みについて

*北田委員より取り組みについて説明があった。

- ・ものづくりサポーター協力による「はぎるん&くすじい」モザイクアート製作について説明。六送会に向け子どもたちと昼休み作業。式典などで展示予定。
- ・今年度の学習支援については、支援内容が学年で異なるため、学年ごと支援内容の確認、来年度の打ち合わせの準備を行った。
- ・学習支援 3 学期活動報告

「3年図工くぎ打ちトントン」金槌の使い方、釘の打ち方、道具の特徴と作る楽しさ、木材の種類の違いから道具の工夫を学ぶ。

「2年国語スーホの白い馬」モンゴル遊牧民の暮らしについて話を聞いた。馬頭琴を見たり演奏体験をした。保護者へ授業を公開。

*増崎委員より学習支援活動報告資料を基に説明があった。

- ・スタサポ参加者に授業の目的、必要性が伝わりにくいところがあった。来年度から学校と

の話し合い、授業ごとに異なる注意点をまとめたスタサポシートを作成。6年生保護者に対して卒業後は地域枠での活動を依頼。今後、手紙配付を予定している。

- ・ボランティアとして携わってくださった方にお礼を添えた手紙を送る予定。

(3) その他

* 3月17日卒業式、4月8日入学式来賓出席の依頼があった。(教頭)

* 来年度メンバーについて

- ・副会長は来年度 PTA 会長に。森本評議員には、運営協議会には出席せず、よい子人権擁護委員は継続していただく。その他のメンバーは、そのまま継続。(校長)

議長により閉会